

読み取り端末もケータイで！ 飲食店や商店街単位の共通ポイントに特化

クークー「モバイルポイントシステム」

モバイル会員証の2次元コードを、店員のカメラ付き携帯電話で読み取るというユニークな方式をとるのが、クークーの「モバイルポイントシステム」である。

同社は、数多くの商店会にポータルサイトを提供しながら、IT技術を活用したマーケティングでコンサルティングにあたってきた。この実績を生かして、地域を面でカバーするというのが同社のポイントサービスの基本的な戦略である。店

舗がカメラ付き携帯電話を読み取り端末代わりに使うアイデアも、店舗のオーナー間にある温度差を乗り越えるために、徹底的にコストを切り下げる必要があることからの発案であった。

店舗の携帯電話はコードをスキャンし、埋め込まれている氏名や生年月日やメールアドレスといった来店者の基本情報を取得する。スタッフが購入金額や付与するポイント数を入力してから、ASP方式で提供されているポイントサービスサーバに接続し、ログを蓄積するというもの。同社がポータルサイト開発を受託している商店街に対してなら、初期のカスタマイズ費用に10～30万円程度、以後の維持経費として1店舗あたり月額1,000円ほどのオプション料金だけで、モバイル会員証用のシステムを提供している。

2004年末には大阪府の駒川商店街で本

格稼働、今年4月からはやはり大阪市の「あべのベルク商店街」（約130店）の約30店舗がQRコード会員証を利用している。どちらもおよそ半数がモバイル会員証を利用。顧客の年齢層もあり、印刷カードとの併用は避けられないが、しだいにモバイル利用が増えれば同社では見ている。

同社ではこのほかに、不正な反復利用を防ぐワンタイム方式のモバイルクーポンの発行システムを開発し、QRコードの浸透を狙う。特に力を入れている飲食店への対応では、予約受付システムを開発し、オプション提供を準備する。さらに飲食店経営コンサル業大手の「コロンブスのたまご」が、すでに加盟店営業をはじめている全国飲食店共通モバイルポイントサービスでも、システム開発を受託している。



◀2次元コードの読み取りにも携帯電話を利用する